

令和6年度 鴛泊港長期構想策定業務 業務報告書 【概要版】

鴛泊港(本港地区)



鴛泊港(鬼脇港区)



令和7年3月
利尻富士町役場
(一社)寒地港湾空港技術研究センター

【 目 次 】

1. 検討概要	1
1.1 検討目的	2
1.2 検討箇所	3
1.3 検討内容	4
2. 鴛泊港の将来構想の検討	5
2.1 整備課題・時期	6
2.2 施設配置計画の検討	10
3. 鴛泊港の発展方向と空間利用計画	23
5.1 今後の発展方向と空間利用計画	24
4. 鴛泊港長期構想鳥観図	26
4.1 鴛泊港(本港地区)全体版	27
4.2 鴛泊港(本港地区) フェリーターミナル及び事業用地周辺拡大部	28
4.3 鴛泊港(本港地区)屋根付き岸壁拡大版	29
4.4 鴛泊港(鬼脇港区)全体版	30

1. 検討概要

- 1.1 検討目的
- 1.2 検討箇所
- 1.3 検討内容

1.1 検討目的

鴛泊港長期構想

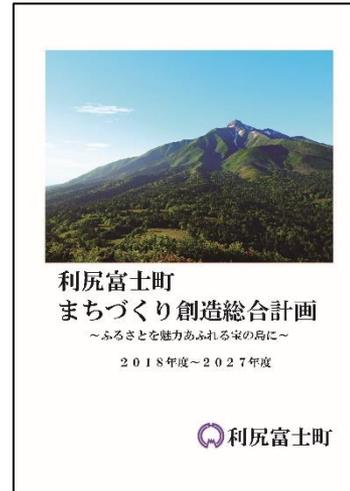
鴛泊港では、平成13年度に、平成30年代前半を計画目標年次とした「鴛泊港長期構想」が策定され、その後、平成22年度に計画の見直しが行われ、その整備方針のもと、段階的に整備が行われている。



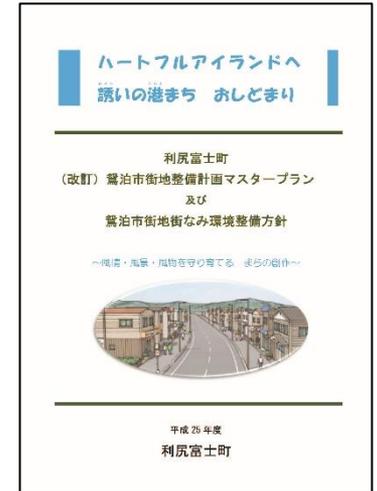
鴛泊港長期構想鳥瞰図(平成22年度作成)

鴛泊港を取り巻く情勢変化

その後、利尻～稚内の航空便やRORO船航路の廃止、フェリーターミナルの改修とボーディングブリッジの新設、みなとオアシスへの登録、利尻富士町新まちづくり創造総合計画や(改訂)鴛泊市街地整備計画マスタープランの策定等、利尻富士町及び鴛泊港を取り巻く社会情勢が変化している。



利尻富士町まちづくり創造総合計画



鴛泊市街地整備計画マスタープラン

鴛泊港長期構想検討委員会の目的

平成30年度前半を計画目標として平成13年度に策定し、平成22年度にフォローアップを行った港湾長期構想が計画目標年次を経過したことから、利尻富士町及び鴛泊港(本港地区・鬼脇港区)を取り巻く情勢変化や、長期構想の進捗状況、鴛泊港に係る新たな課題・要請等を把握した上で、今後の鴛泊港の利用方策を検討して、令和27年度頃を計画目標とした新たな「鴛泊港長期構想」として取りまとめることを目的とする。

1.2 検討箇所



※本調査上の地区名:本調査では地区名称として便宜上、上図に示す地区名を仮称設定する。

1.3 検討内容

まちづくり計画に係る経緯

昭和63年度
東利尻町発展計画

平成10年度
利尻富士町まちづくり総合計画

平成20年度
利尻富士町新まちづくり総合計画

平成29年度
利尻富士町まちづくり創造総合計画

離島振興に係る経緯

令和5年度
北海道離島振興計画

市街地整備計画に係る経緯

平成17年度
鴛泊市街地まちづくり計画書(案)

平成19年度
鴛泊市街地整備計画マスタープラン

平成25年度
(改訂) 鴛泊市街地整備計画マスタープラン

平成30年度
鴛泊市街地街なみ環境整備方針(見直し)

長期構想に係る経緯

平成13年度
鴛泊港長期構想

平成22年度
鴛泊港長期構想フォローアップ

委員会での検討内容

第1回委員会(利尻富士町) (令和6年11月27日)

1. 検討概要

- 1.1 検討目的
- 1.2 検討箇所
- 1.3 検討内容
- 1.4 検討スケジュール

2. 利尻富士町及び鴛泊港の情勢変化と課題

- 2.1 利尻富士町の現況に関わる変化
- 2.2 利尻島の現況と取組
- 2.3 利尻富士町のまちづくり計画

3. 現長期構想の総括

- 3.1 現長期構想の概要
- 3.2 現長期構想の進捗状況

4. 鴛泊港の利用状況と問題点・課題

- 4.1 本港地区
- 4.2 鬼脇港区

5. 鴛泊港の役割と発展方向

- 5.1 本港地区と鬼脇港区の役割
- 5.2 今後の発展方向
- 5.3 空間利用計画の検討

5. 議論のポイント

第2回委員会(利尻富士町) (令和7年2月中下旬)

1. 主要意見と対応

- 1.1 第1回委員会の主要意見

2. 鴛泊港の課題と整備時期

- 2.1 整備課題と整備時期

3. 鴛泊港の将来構想の検討

- 3.1 施設配置計画
- 3.2 将来利用計画図
- 3.3 人流・車流動線図
- 3.4 将来構想鳥瞰図

4. 長期構想の実施に向けた課題

5. 議論のポイント

2. 鴛泊港の将来構想の検討

2.1 整備課題・時期

2.2 施設配置計画の検討

2.1 整備課題・時期 (1)本港地区①

緑字 長期構想策定時からの課題

青字 港湾施設の老朽化に関する課題

赤字 長期構想策定後に発生した課題

⑤みなとオアシスの
取組拡充(短～長期)

⑫脱炭素化への対応(短～長期)

⑦フェリーの船体動揺の
低減(短～中期)

⑨気候変動等に対応した
水産資源の確保(短期)

③親水空間の
創出(中期)

⑩災害時における本土との
物流機能の確保(長期)

⑧漁業活動における衛生管理
と輸出促進(短～中期)

⑪みなとのにぎわい創出の
ための空間創出(短～中期)

⑥老朽化への対応(短期)

④体験交流型観光
スポットの創出(短～中期)

①緑地の有効活用
(中期)

②駐車場不足
への対応(短期)

(撮影年月: R3.11)

2.1 整備課題・時期 (1)本港地区②

課 題		取 組 内 容 と 整 備 時 期	短期	中期	長期
長期構想策定時からの課題	①緑地の有効活用	■緑地の駐車場化: レンタカー等の駐車スペース不足を解消するため、築山を平地化し駐車場用地とするとともに、現状の施設配置を見直して緑地の再整備を行う。			
	②駐車場不足への対応	■新たな駐車場の整備: 緑地以外にも、フェリーターミナル南側や生活排水施設の撤去スペース等の空間を活かして駐車場の整備を行う。			
	③親水空間の創出	■海浜公園の整備: 親水緑地として計画されている機能のうち、トイレや駐車スペース、臨時直売所等の新たな施設を削除して、自然に近い形を残して、自然海浜、ベンチ、ウッドデッキ等による親水空間の整備を行う。			
	④体験交流型スポットの創出	■水産体験施設の整備: タッチプールやウニ剥き体験、昆布加工体験等、観光客や地元住民等が楽しめるスポットとして、水産体験型施設の整備を行う。			
	⑤みなとオアシスの取組拡充	■みなとオアシスエリアの拡充: 地元の水産物を使ったSea級グルメの開発、ナショナルサイクルルートの拠点としてみなとオアシスエリア内にサイクリストの受入環境を整備するなど、みなとのにぎわい創出に向けた取組を行う。	※継続的な取組		
	⑥老朽化への対応	■第四物揚場等の改良: 健全度が低下した港湾施設の老朽化対策を進める。整備時期は健全度の低下状況により決定する。			
長期構想策定後に発生した課題	⑦フェリーの船体動揺の低減	■外郭施設の整備: 荒天時でもボーディングブリッジを利用できるよう、外郭施設の整備を行う。島の玄関口となるフェリー乗降時の安全性確保のため、早期に整備を行う。			
	⑧漁業活動における衛生管理と輸出促進	■屋根付き岸壁の整備: 屋上環境における水産物への直射日光や降雨・降雪の影響、鳥糞・食害の回避による水産物の衛生管理及び輸出促進対策として、屋根付き岸壁を整備する。			
	⑨気候変動等に対応した水産資源の確保	■ウニ・コンブ等の増養殖: 高水温等による近年の水産物の不漁・高騰から、観光客への安定的な提供及び漁業就労所得の確保に向け、外郭施設港内側の静穏水域を活用したウニ・コンブの増養殖を実施する。また、継続的なヒラメの蓄養施設を活用した増養殖事業に取り組む。			
	⑩災害時における本土との物流機能の確保	■耐震強化岸壁の整備: 耐震強化岸壁が整備済の杓形港が津波被害や、土砂災害による道路寸断等で利用不可となった場合でも、北海道本土との物流機能を確保するため、鷺泊港(本港地区)において耐震強化岸壁の整備を行う。			
	⑪みなとのにぎわい創出のための空間創出	■新たな緑地の整備: 子どもが楽しめる遊具やテーブル・ベンチ等の設置により、屋外で遊んだり、休憩や飲食ができるにぎわい空間として、新たな緑地の整備を行う。			
	⑫脱炭素化への対応	■ブルーカーボン・ブルーインフラ及び再生可能エネルギーの導入: ウニ籠養殖と連動したブルーカーボン技術(海藻海面養殖等)、外郭施設整備や老朽化対策実施時にブルーインフラの導入を図る。また、フェリーターミナル内にEV充電施設、太陽光発電設備等の導入を図る。	※継続的な取組		

※緑は長期構想策定時からの課題、青は老朽化対策整備、赤は長期構想策定後に発生した新たな課題 ※短期(概ね5年以内)、中期(概ね6~10年以内)、長期(概ね10年以上)

2.1 整備課題・時期 (2)鬼脇港区①



※短期(概ね5年以内)、中期(概ね6～10年以内)、長期(概ね10年以上)

2.1 整備課題・時期 (2)鬼脇港区②

課 題		取 組 内 容 と 整 備 時 期	短期	中期	長期
長期構想策定時からの課題	①港内静穏度の向上	■防波堤の嵩上げ改良: 東風により発生した波の南防波堤越波による港内擾乱を回避するため、継続して南防波堤の嵩上げ改良を行う。			
	②港内静穏度の向上	■防波堤(波除)整備: 港口から防波堤(北)に沿って波が浸入し、船揚場(北)における漁船の上下架に支障を来していることから、港内防波堤(波除)を整備する。			
	③老朽化への対応	■北物揚場の改良: 健全度が低下した港湾施設の老朽化対策を進める。整備時期は健全度の低下状況により決定する。			
長期構想策定後に発生した課題	④港内静穏度の向上	■島防波堤の延伸: 港口からの浸入波により第二船揚場や西-0.5m船揚場における静穏度が低下していることから、浸入波を低減するため島防波堤の延伸を行う。			
	⑤気候変動等に対応した水産資源の確保	■ナマコの増養殖: 高水温等による近年の水産物の不漁・高騰から、観光客への安定的な提供及び漁業就労所得の確保に向け、港内の静穏水域を活用したナマコの増養殖を実施する。			
	⑥脱炭素化への対応	■ブルーカーボン・ブルーインフラの導入: ナマコ増養殖と連動したブルーカーボン技術(ウニ殻を活用した低炭素藻礁等の調査・研究)、外郭施設整備や老朽化対策実施時にブルーインフラの導入を図る。	※継続的な取組		

※緑は長期構想策定時からの課題、青は老朽化対策整備、赤は長期構想策定後に発生した新たな課題 ※短期(概ね5年以内)、中期(概ね6～10年以内)、長期(概ね10年以上)

2.2 施設配置計画の検討 (1)埠頭計画 1)本土からの移出入バースにおける耐震化

○現在、利尻島には杓形港に耐震強化岸壁が整備済だが、鴛泊港(本港地区)までの距離は緊急物資輸送背後圏の10km以上ある上、杓形港周辺は津波被害、土砂災害による道路寸断等も懸念されている。大規模災害時にも利尻島と北海道本土との物流機能を確保するため、将来的に、本土と唯一の航路を有する本港地区に耐震強化岸壁を整備する。

利尻島津波ハザードマップ

資料:北海道HP



凡例

[浸水深(m)]

- 20m以上
- 10m以上～20m未満
- 5m以上～10m未満
- 3m以上～5m未満
- 1m以上～3m未満
- 0.5m以上～1m未満
- 0.3m以上～0.5m未満
- ～0.3m未満

●代表地点周辺で予測される最大遡上高・津波影響開始時間

地点名			
No	最大遡上高(m)	±0.2m	第1波
①	0.00m	00分	00分
②	0.00m	00分	00分
④	0.00m	00分	00分
⑦	0.00m	00分	00分

±0.2m: 津波影響開始時間
第1波: 津波第1波到達時間

杓形

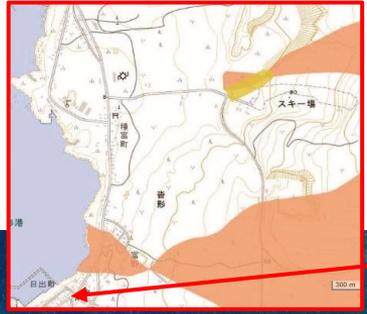
No.	最大遡上高	±0.2m	第1波
①	6.55m	25分	28分
②	7.69m	1分	7分
④	4.34m	44分	48分
⑤	6.68m	47分	51分
⑦	5.71m	48分	51分

鴛泊

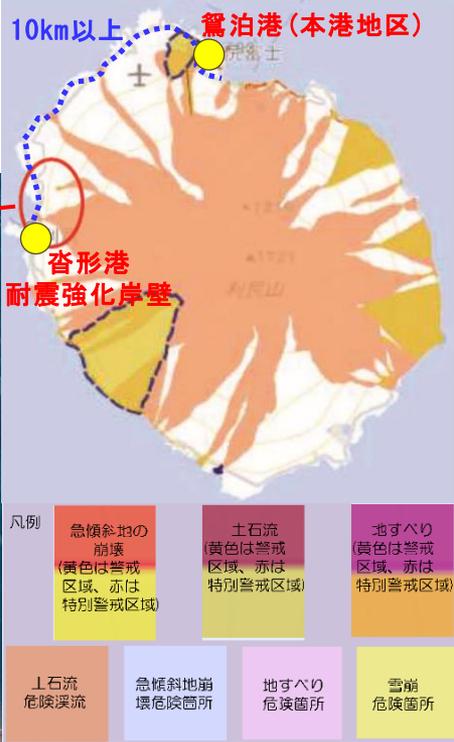
No.	最大遡上高	±0.2m	第1波
①	13.02m	5分	18分
②	4.93m	6分	14分
④	2.22m	57分	57分
⑤	2.39m	60分	64分
⑦	2.15m	67分	70分

鬼脇(旭浜)

No.	最大遡上高	±0.2m	第1波
①	3.85m	2分	17分
②	3.72m	3分	18分
④	2.19m	47分	49分
⑤	3.21m	48分	51分
⑦	3.14m	65分	66分



利尻島の土砂災害ハザードマップ



資料:利尻町HP

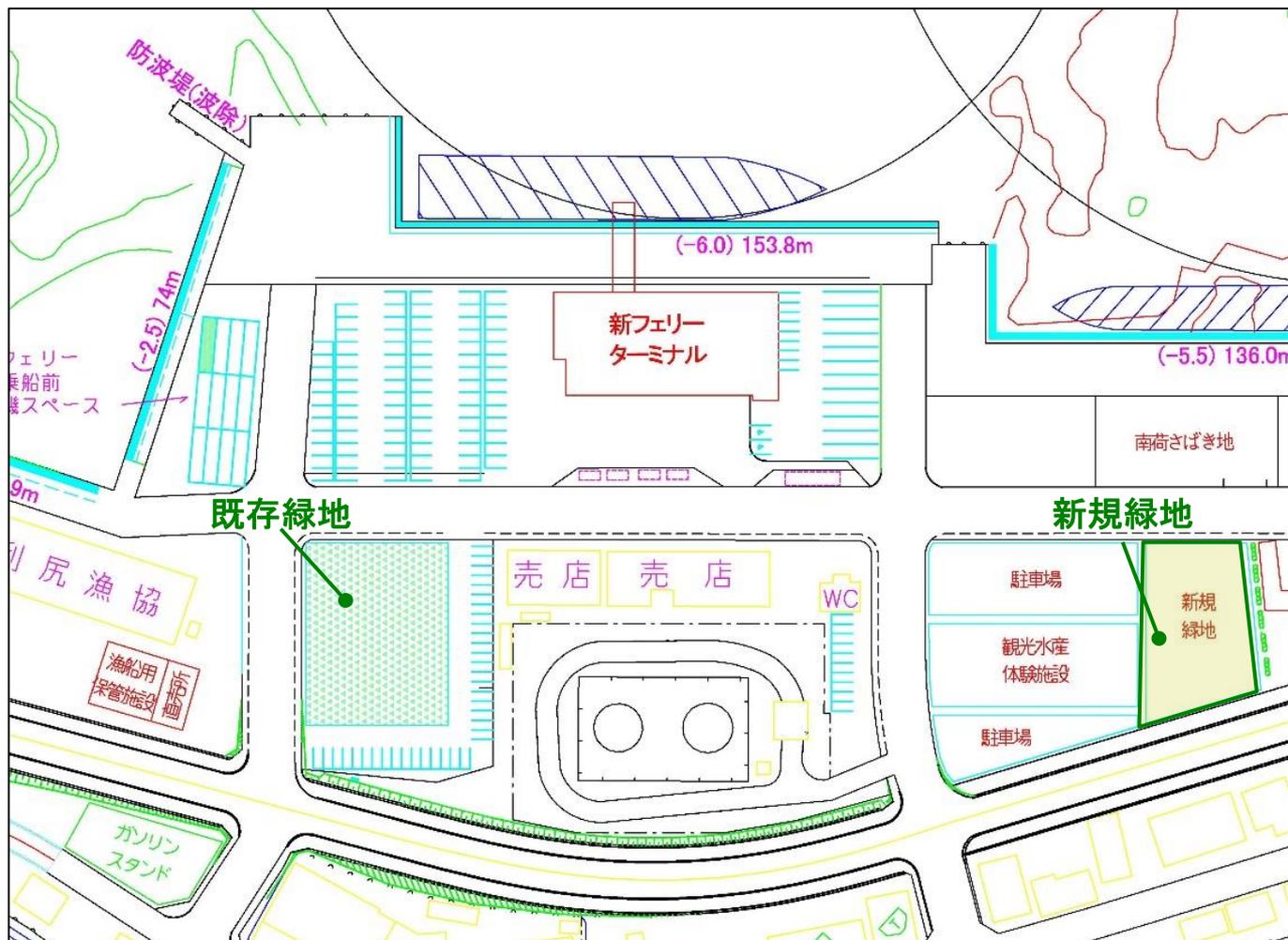


利尻島を周辺港湾を結ぶフェリー航路



2.2 施設配置計画の検討 (1)埠頭計画 2)みなとのにぎわい創出のための空間整備

○本港地区における既存の港湾緑地は、現状、イベントスペースとして利用されているものの、子供達を楽しめる遊具やテーブル・ベンチ、水産体験施設の来訪者が休憩・食事等できるためのにぎわい空間として、事業用地に新たな港湾緑地を整備する。



既存緑地と新規緑地の配置計画案

港湾緑地における遊具のイメージ
苫小牧港港湾緑地(キラキラ公園)



【撮影：2023.7.4】



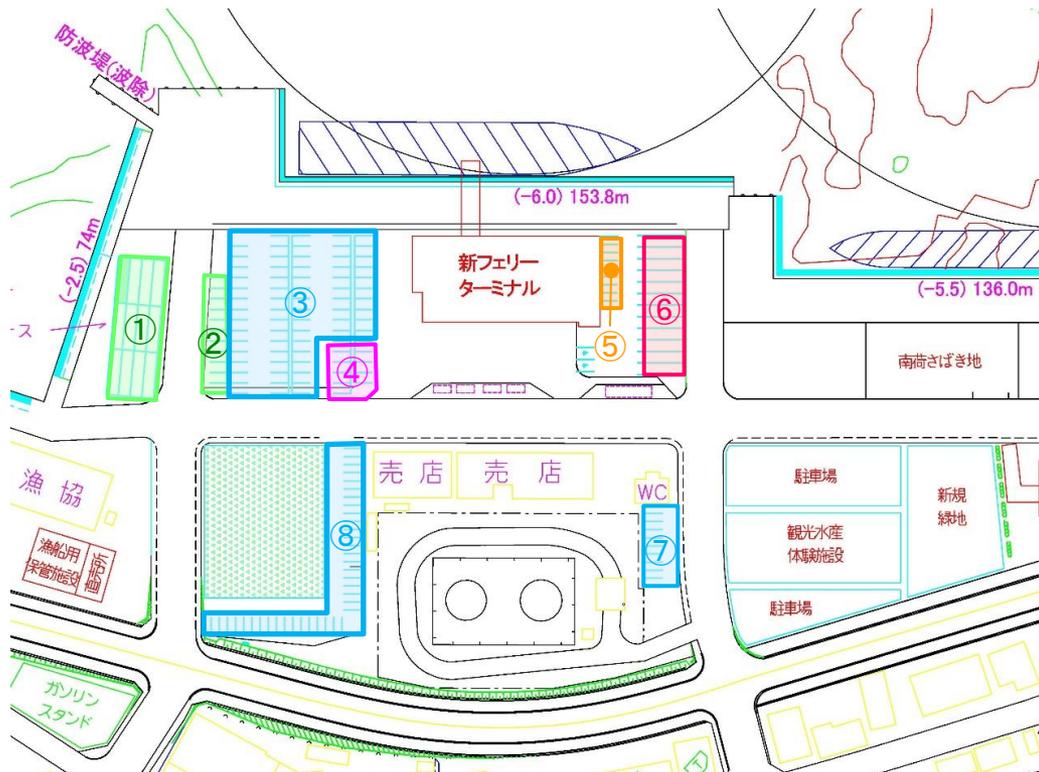
【撮影：2023.7.4】



【撮影：2023.7.4】

2.2 施設配置計画の検討 (1)埠頭計画 3)駐車場不足への対応

- 小型車54台分の新たな駐車スペースとして、フェリーターミナル南側に宿泊等送迎車8台の駐車区画を確保し、既存の港湾緑地の築山を平地化してできたスペース、さわやかトイレ西側の生活排水施設撤去後のスペースに、路上駐車及び事業用地に駐車している分の駐車スペースとして46台分を確保する。
- 確保すべき駐車台数として、現状、整備可能な台数を確保し、将来、事業用地の町有化も視野に入れていることから、将来的な利用状況を踏まえ、「駕泊市街地街なみ環境整備方針」で計画されている港湾周辺の駐車場との連携も考慮し、整備の必要性を検討する。
- 駐車場の利用に当たっては、安全かつ円滑な車流・人流の動線を確保するため、関係者間で駐車場利用に関する規則を定め、これを厳守することが重要である。



場所	利用者	車種	台数	収容可能台数
①	フェリー積込	大型	11	大型24台 小型138台
②	フェリー積込	小型	11	
③	一般駐車	小型	64	
④	ハイヤー	小型	9	
⑤	宿泊等送迎	小型	8	
⑥	観光バス	大型	13	
⑦	一般駐車	小型	10	
⑧	一般駐車	小型	36	

2.2 施設配置計画の検討 (1)埠頭計画 4)緑地の有効活用

○緑地の有効活用の観点から、現状、デッドスペースになっている築山を平地化し駐車場用地として整備する。また、みなとのにぎわい創出のため、オブジェやベンチ、植栽等の必要機能や施設配置を見直して緑地の再整備を行う。



港湾緑地全景



築山の状況



築山の平地化による駐車場利用イメージ

2.2 施設配置計画の検討 (1)埠頭計画 5)港湾施設の老朽化

○ 鴛泊港(本港地区、鬼脇港区)における安全かつ円滑な港湾活動のため、老朽化対策として、定期点検の状況により安全度や機能が低下した港湾施設の改良を推進する。

【改良の必要性の高い港湾施設】

- ・ 鴛泊港(本港地区): 第四物揚場、東-0.5m船揚場
- ・ 鴛泊港(鬼脇港区): 北物揚場 等



鴛泊港において老朽化対策が想定される港湾施設